

心臓血管外科

榊 雅之

当科では、“低侵襲化と生活の質（Quality of life : QOL）向上を目指した心臓血管外科治療”を診療基本方針とし、エビデンスに基づきながら個々の症例の病態や背景に則した最善の治療を目指しています。また、循環器内科や麻酔科、救命救急センターとの緊密な連携の下に緊急対応や外来部門を中心とした病診連携、病々連携を充実させ、遠隔期も含めたきめ細やかな治療戦略をモットーとしています。

虚血性心疾患：冠動脈バイパス手術では、人工心肺装置を用いない低侵襲心拍動下冠動脈バイパス術を第一選択とし、両側内胸動脈、橈骨動脈、右胃大網動脈や大伏在静脈グラフトを駆使した長期遠隔成績の優れた確実な冠血行再建を提供しています。

弁膜症：僧帽弁閉鎖不全症では、前尖病変に対しても人工腱索を駆使した弁形成術を積極的に行うことにより、術後の抗凝固療法の回避および心機能の回復を目指した QOL を考慮した術式選択をしています。

不整脈：心房細動に対する外科治療は弁膜症などの開心術と同時に行っていますが、ラジオ波焼灼と冷凍凝固アブレーションを駆使したメイズ手術により約 70% の症例で洞調律への回復が得られています。

大動脈瘤：胸部大動脈瘤および腹部大動脈瘤では積極的にステントグラフト治療を適応することにより、高齢者、脳梗塞、腎不全、慢性閉塞性肺疾患等のハイリスク症例に対しても飛躍的な低侵襲化が得られています。また、急性大動脈解離では、出血に強く再解離の少ない人工血管吻合法（Adventitial Inversion Technique）を用いた上行大動脈置換や Eaves+Elephant trunk を用いた全弓部置換術を行っており、術後遠隔期を見据えた外科治療の有効性を実証してきています。

【2014 年度研究発表業績】

A-3

須原 均、高橋俊樹、木戸高志、甲斐沼孟：抗生剤が奏功するも生体弁破壊が進行した化膿性脊椎炎合併感染性心内膜炎に対する大動脈弁再置換術の 1 例。日心外 44(2)：P87-91、2015 年 3 月

B-4

甲斐沼孟、高橋俊樹、須原 均、中村優貴：胸部大動脈瘤術後に発生した嚥下障害に關与する危険因子についての検討。第 114 回日本外科学会定期学術集会、京都、2014 年

4月。

中江昌郎、榊 雅之、中村優貴、須原 均、高橋俊樹：大動脈炎症候群を伴う大動脈基部病変に対する外科的治療の遠隔成績。第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会、福岡、2014 年 10 月

中江昌郎、榊 雅之、須原 均、高橋俊樹：当科での大動脈基部置換術の手術成績の検討：自己弁温存手術は術後 ADL を向上させたか。第 45 回日本心臓血管外科学会学術総会、京都、2015 年 2 月

B-6

中村優貴、榊 雅之、中江昌郎、須原 均、高橋俊樹：当科における弓部領域大動脈再建術症例の検討。第 57 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2014 年 6 月。

中村優貴、榊 雅之、中江昌郎、須原 均、高橋俊樹：術中大動脈解離発症例の検討。第 57 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2014 年 6 月。

中江昌郎、榊 雅之、中村優貴、須原 均、高橋俊樹：当科における大動脈基部置換術症例の検討。第 57 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2014 年 6 月。

中村優貴、榊 雅之、中江昌郎、須原 均、高橋俊樹：EVAR 先行が有用であった子宮体癌合併腹部大動脈瘤の 1 例。第 117 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2014 年 7 月。

中江昌郎、榊 雅之、中村優貴、須原 均、高橋俊樹：大動脈弁置換術後に非定型的溶血性尿毒症候群を発症した一例。第 117 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2014 年 7 月。

中江昌郎、榊 雅之、須原 均：アルコール性肝硬変（Child B）を合併した成人大動脈縮窄症の 1 例。第 29 回日本血管外科学会近畿地方会、大阪、2015 年 3 月。

B-8

榊 雅之：超高齢者に対する心臓血管外科手術の現状と課題。第 16 回東大阪循環器病診連携の会、大阪、2015 年 2 月